

平成30年度 第43回関東中学校軟式野球大会

東海大学付属浦安中学校(千葉) 対 羽生市立東中学校(埼玉)



後半に好機を逃さなかった東海大浦安中が全国へ

南アルプスジツスタジアム	2 回戦	第 2 試合	開始時刻	12:15	終了時刻	14:24	試合時間	123分					
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	特1	特2	特3	計
東海大学付属浦安中学校(千葉)	1	0	0	0	2	2	1						6
羽生市立東中学校(埼玉)	1	0	0	1	0	0	0						2

【審判】 球審: 鈴木 健一 一塁: 新海 拓也 二塁: 小山 秀俊 三塁: 小松 健一
 【投手-捕手】 東海大学付属浦安中学校(千葉) 投手-捕手: 小林一森
 羽生市立東中学校(埼玉) 投手-捕手: 福地、内田-塩原(大)
 【長打】 二塁打: 梅木(東海浦)
 三塁打: 福地(羽生東)小林(東海浦)渋谷(東海浦)
 本塁打:

〈試合経過〉1回表、東海浦中は1番梅木(東海浦)の内野安打、送って一死2塁。続く3番小林(東海浦)の内野安打に守備の乱れも絡み1点を先制。その裏、羽生東中は1番福地(羽生東)の三塁打に続き2番栗本(羽生東)のタイムリーヒットが出てすぐさま同点に追いついた。2回、3回が三者凡退と攻撃の糸口をつかめずにいた羽生東中だが、4回裏、先頭の塩原大(羽生東)が内野安打で出塁した。ワイルドピッチと犠打で一死3塁とした後、6番岡戸(羽生東)のレフト前タイムリーヒットで逆転した。1点のリードを許した東海浦中は直後の5回表、1番梅木(東海浦)の二塁打と犠打で一死3塁を作った。続く3番小林(東海浦)がこの日3本目の安打となる右中間へのタイムリー三塁打を打ち、さらに中継が乱れる間に本塁まで帰り再逆転に成功した。6回表、8番渋谷(東海浦)がレフトへ安打を打ち、盗塁と送球の乱れに乗じて3塁まで進んだ。代打の福島(東海浦)がタイムリーヒットを打ち、点差を2点に広げた。その後、連続安打と四球でさらに1点を奪った。7回表にも1点を追加した東海浦中がそのまま羽生東中を振り切った。(敬称略)

打順	守備	選手	打席	打数	安打	打点	三振	四死球	犠打	盗塁
1	3	梅木 颯太	4	4	3	0	0	0	0	0
2	9	瀨崎 亮輔	4	2	2	0	0	0	2	0
3	1	小林 翔	4	3	3	2	0	1	0	0
4	8	鯉坂 賢弘	4	4	0	0	3	0	0	0
5	5	西村 風汰	4	3	0	0	1	1	0	0
6	4	黒澤 雅規	4	3	0	0	1	1	0	0
7	2	森 悠介	4	3	0	0	2	0	1	0
8	6	渋谷 洋充	4	4	3	0	0	0	0	1
9	7	大野 達希	3	3	0	0	0	0	0	0
	H・7	福島 勝太	1	1	1	1	0	0	0	0
計			36	30	12	3	7	3	3	1



チームコメント

東海大浦安中 江原監督
 全中をかけたプレッシャーの中でよい試合になった。相手投手も素晴らしい選手なので練習の成果を出すよい機会と選手達に呼びかけた。次の相手は格上ととらえているので挑戦者の気持ちで臨みたい。

東海大浦安中 小林主将
 初戦は打てずに自分たちの野球ができなかった。今日の試合は打ち勝つことができたのでよかった。次の相手は団結力があり、粘り強いチームだが、勝って全中に臨みたい。

羽生東中 小池監督
 相手の力に圧倒されてしまった。主将のおかげでチームがひとつになり、ここまで勝ち上がり、幸せなステージで戦うことができた。子ども達に感謝したい。

投手	回数	アウト	打者	球数	被安打	奪三振	四死球	失点
小林 翔	7	21	26	96	5	8	1	2

打順	守備	選手	打席	打数	安打	打点	三振	四死球	犠打	盗塁
1	1・9	福地 泰成	3	3	1	0	0	0	0	0
2	6	栗本 慎之介	3	3	1	1	1	0	0	0
3	4	小島 翔	3	2	1	0	1	1	0	0
4	2	塩原 大翔	3	3	1	0	1	0	0	0
5	5	塩原 輝希	3	2	0	0	0	0	1	0
6	3	岡戸 要	3	3	1	1	0	0	0	0
7	9・7	神田 憲伸	3	3	0	0	2	0	0	0
8	7	渡部 凜太郎	3	3	0	0	1	0	0	0
	1	内田 基矢	0	0	0	0	0	0	0	0
9	8	西山 壘	2	2	0	0	2	0	0	0
計			26	24	5	2	8	1	1	0

投手	回数	アウト	打者	球数	被安打	奪三振	四死球	失点
福地 泰成	5 1/3	16	30	118	11	6	3	5
内田 基矢	1 2/3	5	6	26	1	1	0	1

